

ご存知ですか？

生活支援コーディネーター

市の高齢化率は3割を超え、3人に1人が高齢者の時代となりました。少子高齢・人口減少の中、変化するこれからの高齢者支援とそれを支える生活支援コーディネーターの活動を紹介します。

高齢者が高齢者を支える時代

近年、「支え合い」という言葉をよく聞くようになりました。なぜ今「支え合い」が求められているのでしょうか。

一つは少子高齢化などの社会情勢の変化です。高齢化により、元気なシニア世代が増える一方で、ゴミ出しや買い物など、ちょっとした手助けを必要とする高齢者も増えていきます。介護が必要になったときには、暮らしを支える介護サービスはあります。しかし、日常生活上のちょっとした困りごとはサービスでなく近所の支え合いで解決できることもあります。もうひとつは介護保険制度の改正です。高齢者を支える若い世代が

減少する中、これまでのような専門職による高齢者支援では、支援が十分に行き届かないことが予想されます。国は、介護保険制度を改正し、生活支援や介護予防の取り組みについては、市町村が地域の実情に応じて行う仕組みに移行しました。

これを受けて市は、地域のつながり、支え合いを広げていくための「生活支援体制整備事業」を推進しています。

生活支援体制整備事業とは

介護予防で元気なシニア世代を増やしなが、区をはじめとした住民組織やNPO法人、民間企業など多様な主体が連携して、地域の中で支え合いによる生活支援を

進めています。具体的には、豊科、穂高、三郷、堀金、明科の5地域に「生活支援コーディネーター」を配置しているほか、地域ごと生活支援や介護予防に取り組んでいる団体と「協議体」を組織し、支え合いの地域づくりに向けて協議しています。

生活支援コーディネーターとは

地域に向いて地域の中の支え合い活動を把握し、人と人をつなげたり、健康体操のグループや高齢者サロンなどの企画・運営を助言するなど、支え合いによる生活支援の活動をサポートしています。また、介護予防・生活支援の活動を始めたい人や団体の立ち上げ支援、区で必要とする介護予防・生活支援の活動や仕組みづくりの相談に応じます。

生活支援コーディネーターってどんな活動をしているの??

地区の公民館で学習会を開いたり、ワークショップやサロン活動等の企画運営を補助しています。

等々力町区からの相談で行われた「支え合いについて考える学習会」では、市社会福祉協議会から講師を招いて介護予防について学習したり、地域にあるお宝（人・場所・活動等）をワークショップで出し合い、地域の魅力を再発見したりしました。最後はみんなで手作りの料理を食べて交流しました。



穂高地域生活支援コーディネーター
(市社会福祉協議会穂高支所)

竹内紀子 さん

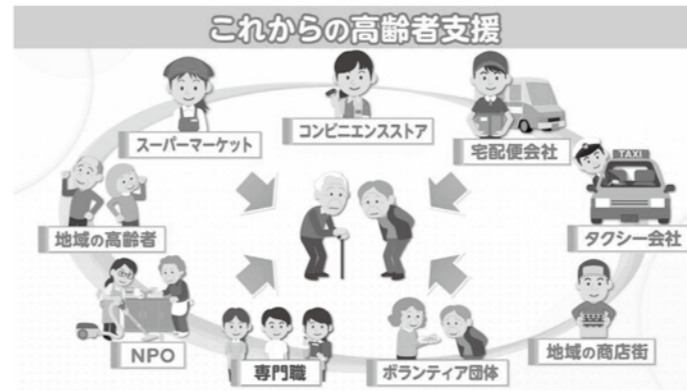
地域には、すでにたくさんの素敵な活動があります。今ある活動を大切にしながら、地域の皆さんと一緒に無理なくできることを考える機会から始めて、支え合いの地域づくりを進めていきたいと思っています。

協議体では、高齢者サロン・健康体操など地域の身近な情報を集め、ガイドブックとしてまとめました。希望者には、介護保険課(1階11番窓口)で配布していますので、ぜひご利用ください。



協議体とは

地域にあるNPO法人・シルバー人材センター・地区社協・老人クラブ・民生委員・社会福祉法人・介護事業者など、さまざまな立場の人たちが集まり、支え合いの地域づくりに向けた話し合いをしています。協議体では、地域のつながりを大切にしながら、地域課題に対して、さまざまな団体の特性や強みを生かし、協働・連携した取り組みを進めています。また、高齢者を支え、地域づくりを担う人たちがつながる場としての役割も担っています。



出所) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング「地域包括ケアシステムの構築に資する新しい介護予防・日常生活支援総合事業等の推進のための総合的な市町村職員に対する研修プログラムの開発及び普及に関する調査研究事業」